第十八講　古文の読解①

Step 1

一 次の文章を読み、あとの(1)〜(4)の問いに答えなさい。

平安中期に上東門院（じょうとうもんいん）（藤原彰子（ふじわらのしょうし）のこと。一条天皇の后（きさき）。）の身のまわりで起こった出来事についての文章である。

まことや、この御時、一つの不思議ありける。上東門院の御方の（注1）御帳（みちやう）の内に、犬の子を生みたりける、思ひかけぬありがたきこと（めったにないこと）なりければ、Aおほきに驚かせ給ひて（驚きなさって）、（注2）江匡衡（がうきやうかう）といふ博士（はかせ）に問はれければ（おたずねになったところ）、「Bこれ、Cめでたき御吉事なり。犬の字は、大の字のそばに点をつけり。その点を上につけば、天なり。下につけば、太なり。その下に、子の字を書きつづくれば、天子（天皇）とも、太子（皇太子）とも読まるべし。かかれば（このようであるから）、太子生れさせ給ひて、天子にいたらせ給ふべし」とぞ申しける。

そののち、はたして皇子御誕生ありて、ほどなく位につき給ふ。後一条天皇（ごいちでうてんわう）、これなり。匡衡、風月（ふげつ）の才に富めるのみならず、Dかかる心ばせども深かりけり。

（「十訓抄」より）

（注１）御帳の内＝位の高い人の生活の場として、垂れ幕をかけて区切った場所。
（注２）江匡衡＝大江匡衡（おおえのまさひら）のこと。学者。「がうきやうかう」は中国風に読んだもの。

(1) 文章中のＡおほきにを現代仮名づかいに改め、**すべてひらがなで**書きなさい。

(2) 文章中のＢこれが指し示す部分を文章中から**二十字以上、二十五字以内で抜き出して、はじめと終わりの五字**をそれぞれ書きなさい。

はじめ □□□□□ ～終わり □□□□□

(3) 文章中にＣめでたき御吉事なりとあるが、なぜそう言えるのか。それを説明した次の文の ① 、 ② に入る言葉を書きなさい。
ただし、 ① は**五字以内**で、 ② は**十字以内**で書くこと。

「犬」の字は、 ① を変え、下に「子」を加えると、 ② を予感させる言葉に変わるから。

① □□□□□
② □□□□□□□□□□

(4) 文章中にDかかる心ばせども深かりけりとあるが、どのようなことに対しこう言っているのか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア　匡衡が、自然現象に関する広い知識により、奇妙な出来事の背景をあざやかに解き明かしたこと。

イ　匡衡が、漢文の幅広い知識により、不可解な出来事を中国の故事を引用して整然と説明したこと。

ウ　匡衡が、とても優れた予知能力により、意外な出来事から上東門院の将来の姿を言い当てたこと。

エ　匡衡が、豊富な知識と優れた機転により、予想外の出来事をたいへん縁起が良いと解釈したこと。

□

【千葉県】

Step 2・3

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

＊小式部内侍（こしきぶのないし）、この世ならず（はなはだしく）1わづらひけり。かぎりになりて（もう終わりかというまでになり）、人顔なども見知らぬほどになりて（人の顔なども見分けがつかないほどになってしまって）、臥（ふ）したりければ、和泉式部（いづみしきぶ）、かたはらにそひて、額をおさへて2泣きけるに、目をわづかに見あけて、母が顔をつくづくと3見て、息の下に（苦しい息の下で）、

いかにせむ（どうしたらいいのでしょうか）4いくべき方をおもほえず親に先だつ道を知らねば（親に先だって死んでいく道も知りませんので）

と、わななきたる声にて候（さうら）ひければ（ふるえる声でよみましたところ）、5天井の上に、あくびさしてやあらむ（あくびをかみ殺したかと思われるような声で）、とおぼゆる声ありて、「あな、あはれ」といひてけり。さて、身のあたたかさもさめて、よろしくなりにけり。

（「十訓抄」より）

（＊注）小式部内侍…後に出てくる和泉式部の娘。

Step 2

問一　「1わづらひ」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

Step 2

問二 「2泣きけるに」「3見て」について、主語の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

	2の主語		3の主語
ア	小式部内侍	―	和泉式部
イ	小式部内侍	―	小式部内侍
ウ	和泉式部	―	小式部内侍
エ	和泉式部	―	和泉式部

Step 3

問三 次の文章は、「4いくべき方をおもほえず」について説明したものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

この表現には、同音を利用して二つの意味を持たせる表現技法すなわち（①）が用いられています。
その表現技法によって、「生きる方法がわからず」と「（②）方向がわからず」という二つの意味を持たせています。

(1) 空欄①にあてはまるものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 枕詞　イ 対句　ウ 体言止め　エ 掛詞

(2) 空欄②にあてはまる言葉を、漢字とひらがなを用いて、一語で書きなさい。

Step 3

問四　次の会話は、「5天井の上に、あくびさしてやあらむ、とおぼゆる声ありて、『あな、あはれ』といひてけり」に関する生徒と先生のやりとりです。この会話を読み、あとの問いに答えなさい。

生徒　天井の上であくびをかみ殺したような声を出した人がいるようですが、それは誰ですか。

先生　その質問に答える前に、私から質問しましょう。
最後の一文に、「身のあたたかさもさめて、よろしくなりにけり」とありますね。
あなたが質問している天井の上の声の主によって、何かに変化が起きたことが述べられているのですが、その内容はわかりますか。

生徒　前からの流れで考えれば、（　①　）ことですか。

先生　よくわかりましたね。では、あなたが質問している天井の上の声の主についてですが、実は、以前授業で読んだ『古今和歌集』の冒頭部分がヒントになるのですが、どうでしょうか。

生徒　えーっと……もしかして（　②　）ですか。

先生　そのとおりです。

生徒　そうすると、（　①　）のは、（　②　）が（　③　）に心動かされたからなんですね。

(1)　空欄①にあてはまる内容として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　病床にいた娘が、病気の重い状態から回復した

イ　娘が、長年思いを寄せていた男性と結婚した

ウ　長い間わずらっていた母親の病気が完治した

エ　母親の怒りが冷めて、娘が母から許してもらえた

(2) 空欄②にあてはまるものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

（『古今和歌集』冒頭部分）

「力をも入れずして、ア天地（あめつち）を動かし、イ目に見えぬ鬼神（おにがみ）をもあはれと思はせ、ウ男女（をとこをむな）の仲をも和らげ、エたけき武士（もののふ）の心をも慰むるは、歌なり」

□

(3) 空欄③にあてはまる内容として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　母親が娘の無念さを詠（よ）んだ歌

イ　母親が自身の辛さを詠んだ歌

ウ　娘が自身の悲しみを詠んだ歌

エ　娘が母親への感謝を詠んだ歌

□

【鳥取県】

〈Note〉

第十六講　韻文の鑑賞①

Step 1

一

解答

1、F　2、D　3、⑴空さわぐ　⑵ア

解説

1、名詞で終わる表現技巧の体言止めが使われているのは、CとF。Fの「花吹雪」が、「春の空の下」での動きや、「空間の広がりと美しさ」を表している。

2、冬の句はBとDで、どちらも「かな」という切れ字が使われている。Dの「怒濤」が、「目の前で繰り返される激しい動き」を表している。

3、⑴「風の吹く中で見上げた空が…ているように感じたこと」に着目して、鑑賞文はAの句について述べたものだということをおさえる。この句で、空が揺れ動く様子を表現している言葉を抜き出す。⑵葉桜のすき間から、空の光がちらちらと輝いて見える様子をおさえる。

Step 2・3

二

解答

1、㋐おど(り出た)　㋑かしょ　㋒ひんぱん　2、a、魚と海との親しい関係　b、魚の生動感　3、ウ　4、鳥の中にすっと入って、身体の重みを風に乗せるコツを自分の筋肉と筋肉の間に置くこと。(41字)(同意可)　5、エ　6、Ⅰ、地平線　Ⅱ、イ

解説

2、「海面に魚が躍り出た」という表現からは「全く伝わってきません」とされていることがらに着目し、ａは海との関係、ｂは身体の動きを表すことばをおさえる。
3、「すぽんと海を脱ぐ魚」という表現と、「海面に魚が躍り出た」という表現の違いから、詩の表現の特徴を示している。
4、「僕がお前に／すっと入ってしまうやり方」を考え、次に凧に乗ることを考えている。
5、直前の「ここ」は、「身体の重みを…置けないかしら」と持ちかけられると、「川崎さんと一緒になって…気分になって」しまうことを指している。最終段落で、詩では「訴えを聞く人が…丁寧な話の持ちかけかたが大事」であるとまとめている。
6、Ⅰ、最初に「飛びつく」ものである。Ⅱ、「僕は世界にぶら下つた」「僕は赤くなる」「僕は収縮する」「大きく世界が一回転して／僕が上になる」という「僕」の姿の描写から伝わるものを考える。